

北海道札幌平岸高等学校の取組

(学校ホームページ <http://www.hiragishi-h.sapporo-c.ed.jp/>)

1. 学校の実態・地域性等

平成 17 年度開設のデザインアートコースにおいて、授業の一環で「さっぽろ雪まつり」の雪像案を考案し、毎年大通公園にて中雪像を制作している。昨年度に引き続き中雪像は、「札幌らしい特色ある学校教育」の三つのテーマ【雪】【環境】【読書】のマスコットキャラクター「ゆっぼろ」「ちっきゅん」「おっほん」を今回も制作する事とした。

2. 実践単元名

1、2 年生 美術科「さっぽろ雪まつり雪像制作」(10 時間扱い)

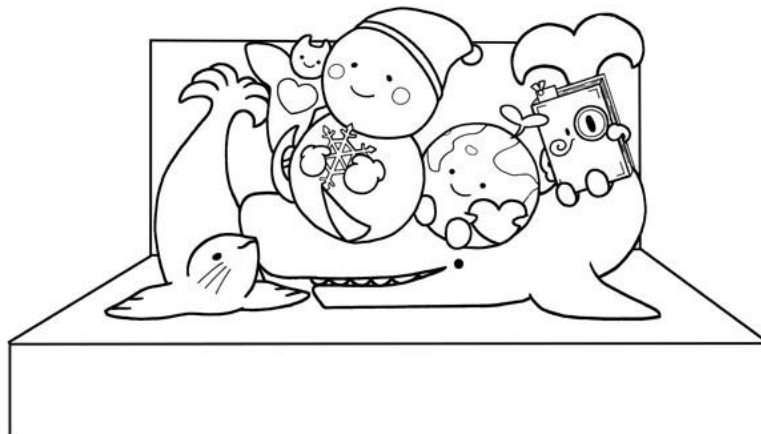
3. 目標

雪像を通して市民や観光客に「札幌らしい特色ある学校教育」の三つのテーマやキャラクターを理解してもらい親しんでもらえるように、全員で協力し計画的に制作を進める。

4. 取組の様子

(1) 雪像模型の制作

雪像の図案は、「札幌らしい特色ある学校教育」のマスコットキャラクターをテーマに生徒がデザインした。雪像模型は、制作班の生徒が放課後等を利用して制作した。また、12 月 20 日の第 2 回さっぽろ雪まつり実行委員会において、雪像模型を発表した。



(2) 雪像制作

雪像制作は、1月18日より2月1日までの約2週間大通西6丁目にて行っている。制作中の様子は、テレビ局に取材され、2月9日(土)のJ:COM札幌「雪像ミュージアム2013」で雪像制作の様子が紹介され、代表生徒が出演した。



雪像制作の様子

5. 研究のまとめ

今回の取り組みを通し、さっぽろ雪まつりの雪像制作の学習活動が後述のように姉妹都市ポートランド市のグラント高校との交流に発展し、さらに札幌国際プラザと連携して、デジタル絵本をポートランド市の日本語教育の教材として制作し、国際交流と発展させることができた。

来年度は、今年の雪まつりで話題になった雪像のプロジェクションマッピングに、来年度は雪の学習活動として取り組んでいきたい。

デジタル絵本の制作

昨年度、「雪に関する学習活動研究実践校」として、大通西6丁目にさっぽろ雪まつりの中雪像を1月に制作する際に、札幌の姉妹都市であるポートランド市のグラント高校の生徒たちと共同制作を行った。本来は、2011年の夏に札幌を訪問する予定であったが、震災の影響で半年予定がずれて冬の札幌訪問となったポートランドの高校生たちは、イマージョンプログラムによって幼少の頃より日本語を習っており、通訳なしで本校の生徒たちと雪像制作の交流することができた。

8月に来校したポートランド市教育委員会のマイケル・ベーコン指導主事から「日本語教育の為に、絵本が教材として不足している。」ことを聞き、読み聞かせができる日本の昔話の絵本をデザインアートコースの授業で制作し、iPadなどで使えるデジタル絵本として提供することを提案した。

10月から2、3年生の映像メディア表現とビジュアルデザインの授業で、文字が入ったナレーション付きのデジタル絵本の制作を始め、タイトルが重複しないように2~3名の生徒で1つの絵本を制作し、3年生が6タイトル、2年生が5タイトルを制作することとなった。ナレーション付きの絵本は、動画になっており、それを英文のテキストと挿絵がついた絵本として、アップルが無料で提供している電子書籍編集ソフト、iBooks Authorを使って編集・制作し、3月13日にポートランドとの交流をコーディネートして頂いた札幌国際プラザの後藤氏らを招き、Skypeを使ったデジタル絵本の贈呈・発表会をグラント高校と行った。



Skypeによるデジタル絵本の贈呈式

札幌市中央図書館との連携

今回のデジタル絵本は、札幌市中央図書館の電子書籍の実証実験である平成25年2月7日～12日の企画展「電子書籍と本で知る“さっぽろ”」では、タブレット端末で実際に手に取って読んでもらう電子書籍としてデジタル絵本が紹介された。

また、グラント高校へのデジタル絵本の贈呈式の様子とともに、ポートランド札幌姉妹都市協会のホームページ、ポートランドの日本語イマージョンプログラムの「親の会」のホームページ、オレゴンの日本語教師協会でも紹介された。

来年度もポートランドの日本語教育のためにデジタル絵本を制作する予定である。今回のデジタル絵本は、以下のURLからダウンロードすることができる。

<http://www.hiragishi-h.sapporo-c.ed.jp/PictureBook/>



制作したデジタル絵本